

# ODA

# しゃりん 100号

## 沖縄脊髄損傷者連合会

発行：沖縄県身体障害者福祉協会

編集：沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211

〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 西棟2階 ボランティア小規模団体室

E-Mail sekiren@proof.ocn.ne.jp

HomePage <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

## 第28回沖脊連定期総会報告

去った5月27日(日)に第28回定期総会を「サン・アビリティーズうらそえ」研修室にて開催され、今年例年になく多くの会員が参加していました。神里さんの司会で始まった総会の冒頭、会長挨拶では昨年度に実施した脊髄損傷者相談会や障がい者理解推進プログラム事業の成果報告、全脊連の公益法人化移行に伴う沖脊連のスタンスについての説明がありました。その後平成23年度事業経過報告、平成23年度収支決算報告及び会計監査報告がされ、異議なしで承認されました。続いて沖縄脊髄損傷者連合会を「特定非営利活動法人 沖縄県脊髄損傷者協会」へ移行する提案が異議なしで承認され、その時点でNPO法人設立総会に切り替えて、NPO法人に移行するための幾つかの承認事項などを説明し承認を得ることができたので早速申請手続きに入ることに決まりました。また申請手続きの

段階で定款等小さな修正を指摘されたときには、会長に一任することも併せて承認を得て全ての審議を終了しました。最後に池原相談役から日本身体障害者団体連合会(日身連)が設立された経緯や同会が果たしてきた社会的役割についての説明があり、沖脊連がオピニオンリーダーになることを望むとの激励のことばを受けて、第28回定期総会を終了しました。総会終了後には沖縄セルラー電話株式会社(au)より講師をお招きして「障がい者の携帯電話・スマートフォン活用術」の勉強会を開催しました。携帯電話とスマートフォンの違いなどの説明を受けた後、2種類のスマートフォンのデモ機を実際に操作体験をさせてもらいながら、個人個人の質問へも対応してくれ、有意義な勉強会になりました。(枝川)

# ちはる歯科クリニック

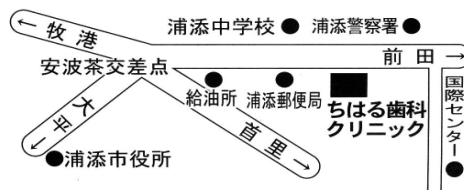
## CHIHARU DENTAL CLINIC

浦添市仲間3-3-9

☎(098) **877-6480**

FAX (098) **877-9251**

E-mail [chiharu@ryukyu.ne.jp](mailto:chiharu@ryukyu.ne.jp)



### 訪問歯科診療と口腔ケアを行なっています!

対象者：在宅療養をしている個人で、通院が不可能な方。  
病院、保健施設等に入所(院)されている方、障害者施設に入所の方。

## 第11回全脊連総会青森県大会

去る平成24年6月1日(金)から3日(日)、ホテル青森にて第11回全脊連総会青森県大会が、支部会員並びに関係者各位の参加で、和やかに執り行われました。

1日目は、代表者会議、自動車事故対策機構の業務説明。特に代表者会議では昨年10月に公益法人化に向けての書類を本部に提出をしたが、何の通知もなく本部と東京支部のみが公益法人化に向け進めて行く事の議論がされ、昨年提出させてた書類内容では直ぐに全支部を入れた公益法人化が難しいと判断した為、今回は本部、東京支部の公益法人化を進めている。また数年を掛け他の支部も公益法人化する方向で考えています。最終的に47都道府県が公益法人化になることが目標です。

2日目の午前中は、シンポジウム「災害時における障がい者の避難とその後の生活について」全脊連大濱副理事長の「障がい者の被災状況・避難時の問題点について報告されました。実際に昨年3月11日に甚大な被害をもたらした東日本大震災で経験された岩手・宮城・福島支部の方々の報告がありました。被災された山形支部の方は、携行缶にて灯油・ガソリンの搬送を行われた事、ひかみの湯としてコンテナハウスを利用した入浴サービスを350名利用の事などの報告が有りました。最後に経験者からは、全ての人々が被災している為、実際の救助は3日以上後になり、鉄則として①自分の身は自分で守る！②普段から近所の方と仲良くしておく！③震災時は、水・電気等が止まって洗浄ができないため、使い捨てのカテーテルをストック、水などを普段から備えることが必要！という報告で締めくくりました。最後に全脊連妻屋理事長から平成18年3月災害時要支援護者の避難支

援ガイドラインの説明を行い今後の被災支援の取り組み・要望等に進めて行くことで会は終了致しました。被災支部会員：全崩壊18軒、半崩壊26軒、一部損壊49軒、合計93軒。

昼食後、昨年度の事業報告及び収支決算書の内容が審議され、全会一致の拍手で承認されました。さらに3年間を費やした公益法人への移行も昨年の臨時総会での決議後、本部と一部支部の公益法人移行申請を専門家の行政書士「CILふちゅう」に業務委託契約を行い手続きを進めている状況です。公益法人へ移行後は新たに代議員制を導入し全国各支部の正会員30人に1人の割合で代議員と補欠の代議員を選挙により選出することが必要になることで進まれています。代議員は法律上の社員になり全国総会に出席し、議決権を行使し役員専任や解任、或いは意見を述べる事が主の役割となります。と執行部より説明がありました。また会計の赤城氏からは、近年会員数の減少により収入の減少傾向で、平均して100名ほど会員減少がみられる。原因は不明、亡くなられた方以外は特に分析はしていませんが、約4000名の会員が現在約3000名になっています。寄付を含めた収入の減少で会計上は非常に厳しい状況と報告が有りました。総会終盤で大阪府支部より公益法人化に伴い連合会のあり方として戦略と戦術の再構築(反省、時代、見直し視点、団体の経緯、連合会の場合、防災の事等)検討する意見が出されました。次回開催される第12回全脊連総会富山県大会は、平成25年6月7日から9日の日程にて砺波ロイヤルホテルで開催されます。

終わりに大会開催、参加者の受け入れ等尽力された青森支部の皆さん、ボランティアの皆さんへ感謝を申し上げ報告と致します。(片倉)

## 身障者用駐車スペース利用証導入 県内も機運（沖縄タイムスより）



店舗や公共施設、病院などの身体障がい者用駐車場に一般ドライバーが駐車する迷惑行為を防ごうと、自治体が駐車利用証を発行す

るパーキングパーミット（身障者用駐車場利用証）制度導入の議論が県内で始まっている。先行する他県では身障者ら対象者の約8割が「駐車しやすくなった」と答えた。県内関係者からも「早めの制度導入を」と望む声が上がっている。

パーキングパーミットは身障者や高齢者、難病患者のほか、妊産婦やけが人などに交付する。利用証はルームミラーにつるす。施設管理者は、利用証のない車両について文書や口頭で注意する。

「車いすマーク」は市販されていて、だれでも購入できるため、健常者の「なりすまし駐車」も指摘される。同制度では自治体が利用証を発行し、有効期限が示されているため、信頼性が高いとされる。

ことし4月現在26府県・3市が導入。2006年に全国で初めて取り組みをスタートした佐賀県は、施設管理者と協定を結び運用。09年に行った利用者アンケートでは77%が「止めやすくなった」と回答した。県内では7月13日、障がい者団体代表や有識者らでつくる県の「県福祉のまちづくり審議会」が、同制度の導入議論を始めた。委員の一人で車いすを利用する沖縄脊髄損傷者連合会の仲根建作会長は、「商業

施設によっては身障者用駐車場が障がい者マークのない車両で埋まり、乗り降りできない」と指摘した。他の委員からも制度導入の要望が相次ぎ、継続審議となった。事務局の県障害保健福祉課は「先行する県では利用者が増加し、駐車スペースが足りなくなるなどの課題が出ている。県内の課題やニーズなどを整理したい」と述べた。

## 県勢2人パラリンピックに 仲里選手と上与那原選手 （琉球新報より）

日本パラリンピック委員会は3日、ロンドン・パラリンピック（8月29日～9月9日）に派遣する126選手を発表した。県勢は陸上（車いす）で上与那原寛和選手(41)＝沖縄市、ウィルチェアーラグビー（車いすラグビー）で仲里進選手(35)＝浦添市＝が選ばれた。

上与那原さんは2008年の北京に続く出場。北京では車いすマラソンで銀メダルを獲得した。今回は100メートルなど4種目に出場する。上与那原さんは「必ずメダルを持ち帰りたい」と抱負。

仲里さんは2004年のアテネから3大会連続の出場。北京で日本は7位だった。仲里さんは「メダルを狙いたい」と意気込みを語った。



# しゃりん100号記念企画 創刊当事者による座談会

おかげさまでしゃりんは21年かけてついに100号を達成することができました。  
これを記念して、創刊当時に関わった方々をお招きし、座談会を開いて当時の苦労話やこれからのことを語り合ってもらいました。

参加者：横田清（初代会長）、荻堂盛助（2代目会長）、大城昌彦、上里一之、砂川昭人

## ●「しゃりん」のヒントは福岡脊連

砂川：まず、「しゃりん」という名前はどのようにやって決めたのですか？

横田：当時僕は福脊連の会員だったのでいつも読んでいた「わだち」（福岡脊連の広報誌）に由来があるわけさ。あれを参考にして、あっちが「わだち」（しゃりんが通った跡）だったら、わったーは本体（しゃりん）で行こうということになったわけさ。

## ●沖脊連ができるまで

砂川：それで「わだち」を参考にしたんですね。でもなぜ福脊連の会員だったんですか？

横田：僕は脊損になった当時、向こう（福岡）で療養しているときであるわけさ。

荻堂：沖縄の脊損者はだいたい九州労災病院の出身さー。

横田：だから、脊損連合会があるっていうことも向こう（福岡）に行ってみたらわかったわけ。それで向こうの活動に毎週土曜日は駆り出されて、それで活動のしかたを習ったわけ。して、沖縄に帰ってからすぐ他の脊損者に声をかけて集めた。

砂川：他の脊損者といっても連絡先などは分からないですよね。どうやって情報を集めたのですか？

横田：福脊連にいるときに『沖縄に帰ったら脊損の先輩である荻堂さんという方がいるから訪ねてね』って言われていたので、（沖縄に）帰ったら荻堂さんにすぐ電話して会ったわけさ。で、荻堂さんは他の脊損の人の情報も知っているのよ、もう一本釣りよ。

荻堂：当時は車いすバスケットの連中（旧沖縄シーサークラブ）もいたし、暇だったからあちこち廻って歩いてたわけさ。

砂川：ちょっと待って！シーサークラブって沖脊連より前からあったんですね。

横田：沖脊連よりずっと前からあったよ。それで、シーサーはチームごと釣って・・・。

荻堂：脊損者が動くべきだとか何とか言いながら、とにかく無理矢理！

砂川：しかし当時は無理矢理動かせることができたんですね。

荻堂：付き合いがあるからじゃないの？あの頃はみんなヒマだったし。

大城：脊損だけとは限らなかったってことだよな。

横田：そーそーそ。とにかくもう、元気で障がい者で、なおかつ車いすであれば誰でもかんでも入れてた。要するに数をそろえるのが大事だった。

砂川：要するに福脊連の活動がすごかったんですね。

## ●創刊号は手書き、しかも奥さんの!?

砂川：しゃりんの創刊号は手書きですが、これはどなたが書いたものですか？

横田：これは俺の字じゃない。だから、荻堂さんの奥さんの字じゃないか？僕の記憶は奥さんに書いてもらった記憶しかないけど。

荻堂：そうね～？あーそんな感じだね。（照）

横田：多分ね、この「しゃりん」という題字だけは僕が書いた記憶がある。この斜線

(題字の周囲にある網掛けの斜線) もね。これ(斜線)も僕のアイデアだよ。(※10周年記念冊子115ページ参照)

横田：枠もよ、全部線引きでひきよったよ。手書きで。

大城：創刊号は片面(1ページ)だけで?

横田：あーもう、この当時は片面で。1枚書くのに精一杯さーね。中身はもう全部僕がやっていたよ。

荻堂：字書くのが大変だのにね。

横田：まあ文章書くのが大変だのに。ハハ。

砂川：これを当時は郵送していたんですか?

横田：1部60円ぐらいでかな。

砂川：その経費はどこから出ていたんですか?

横田：だから会費からさ。

荻堂：だから会費集めるのももなかなか大変だったよー。会費集めるってまた走り回ってたから。

荻堂：だから、あの頃は労災で生活に困らない人たちがしか(脊連の運営を)できなかったわけ。だから「労災の人ががんばって!」とか言われてたさ。

砂川：当時しゃりんは何部ぐらい発行していたんですか?

横田：多くて4~50部ぐらいは作ってたはずよ。ただ、送る分は会員分しか送らない。

## ●初期のしゃりんは番号がなかった

砂川：最初の頃のしゃりんっていくつか番号が無いんですよね。なぜですか?

横田：定期刊行してないから。

荻堂：ヒマなときに作るという感じさ。

横田：だから1号2号とか入れる必要なかったわけ。

荻堂：この文章の書き方とかは横田さん流でやっていて、昌彦がそれを引き継いでから、それから勉強してからこんな感じになったわけさ。

砂川：昌彦さんは当時からワープロが使ってたんですか?

荻堂：あーもう昌彦は夜中、朝までやってたよ。ワープロ。(制作スピードが)早かったよ。二人でやっててからね。あのワープロはどっからもらったかね?

砂川：昌彦さんはなぜしゃりん担当になったんですか?

大城：なんでって言うよりも、何かしないとイケなかったから。しゃりん(を担当する)っていう考えはなかったわけさ。ただ会員に対して報告をしないとイケないだろうし、もともとが報告物さーね。定期的に発行していなかったんで、報告したものしか載せられないわけよ。実際に間に合わせきれるかっていう自信もなかっただろうし。

横田：とにかく、必要が出てきたら発行するっていう形だった。

砂川：で、番号無しがいくつか出た後に正式な?しゃりん1号が出ていますね。

大城：僕は(番号無しの)しゃりんをワープロで担当してから2回発行しているわけさ。で、継続してやろうっていう話になって第1号って付けはじめたのが1991(平成3)年8月。

砂川：あ、定期刊行するまでの間は(しゃりんを発行していなかった)空白の2年間があったわけなんですね。

上里：正式な第1号を発行するあたりから僕が浦添の社会福祉センターに来たり福祉プラザに来たりして、「定期発行の機関誌作らないんだねー」とかいう話になって、「じゃあ私がやりましょうね」という感じになった。

砂川：上里さんは当時ワープロを打ってたんですか?

上里：俺は当時ワープロは打ちきれなかったからお父さんをお願いしていた。

大城：最初は僕が原稿打って、それを上里さんが編集して上里さんのお父さんに渡すとかね。

## ●ODAができるまで

横田：当時は全脊連から来る脊損ニュースは、今みたいに各会員の家に直接発送してなくて、いったん沖脊連にまとめて送っても

らって、しゃりんを一緒に同封してここからまた各会員に送ってたわけよ。

で、しゃりんを同封した脊損ニュースを、郵便ポストに入れるわけにいかないんで、会員分をぜんぶ郵便局に持って行って、「これを第三種郵便物で一部8円で発送お願いします。」ってお願いしたらさ、「第三種郵便物は15円なので8円では送れません」って絶対聞き入れてくれなかったわけよ。

横田：でも当時の脊損ニュースは第三種郵便物指定で8円で送っていたので、そのことを郵便局に確認してもらったりとか交渉して、やっと8円で送ってもらえるようにようやく認められたわけよ。

横田：でもね、発送をお願いする郵便局によってはそれが認められない場合もあったわけよ。

大城：その第三種郵便物の件を分からせるために、当時あっちこっちの郵便局から(脊損ニュースを同封した)しゃりんを送ってたよ。

荻堂：あー、そんなことあったねー。

横田：要するに発送物を郵便ポストに入れて会員に送ろうとしても第三種郵便物で発送できないから、郵便局に行って8円で送れるって「説得」し、許可をもらって封筒にハンコを押してもらってやっと送っていた。それをあっちこっちの郵便局へ行ってやっていたわけよ。

横田：当時でも今みたいに各沖脊連の会員宛てに全脊連から脊損ニュースを送ることはできたんだけど、でも僕たちは会員の情報とか繋がりを持つためには(沖脊連から)直接送りたいんだと、あえて全脊連にお願いしてそうしたわけよ。だから僕らしゃりんを送るって結構なんぎしていたよ。

砂川：しゃりんを安い値段で送るって大変だったんですね。

砂川：発送代が8円で会員分、例えば50部送ると4,000円ですよ。

横田：それにコピー代が今より高くて1枚40円とか50円とかしよったはずよ。あれも恐ろしかったよ。

荻堂：そうだコピー代も高かったねー。

砂川：紙代は？

横田：紙は自分たちで持ってくるわけさ。

荻堂：安いところで(自己負担で)買ってくるわけ。

横田：で、会費は1,500円だから、これを続けるとフシガランでしょーってなって、沖身協の人からでっかいコピー機をもらったわけさ。で、もらったはいいけどものすごくでっかいわけよ。当時僕は前田の団地にいる頃にこれをもらって家に運んでもらってからに、印刷をやったのはいいんだけど、もう、これが優れもんですよ、すぐ壊れてから1回か2回くらいしか使えなかったよ。とにかく役たんかったよ。破棄するのも大変だった。

砂川：ODA(低料第三種郵便物制度)の利用はそこから始まったんですか？

大城：全脊連が脊損ニュース発送にそれを利用していたという経緯があって、第三種郵便物制度を使って安く発送できるノウハウは僕ら知ってたわけさ。この制度を利用するためには、いろんな障がい者団体を集める必要があったわけさ。最初は僕らがこれをやろうよって言って8団体くらい集めた。

横田：あの頃は機関誌を発行しているところだけに呼びかけたんじゃない？那覇身協とかリウマチ友の会とか。みんな発送の経費が悩みだったし。

大城：ODAの利用を守るためには8団体のそれぞれの機関誌を元に、月1回かならず発行させるように、当時は沖脊連が関係団体に調整を取っていたわけ。

例えば今月沖脊連がしゃりんを発行したら来月は別の団体が発行という感じで。それでも、ある月に発行がどうしてもできない団体があったら沖脊連がむりやり発行日を変えて出すとか、そういう調整をしたりしていた。そういう発行の仕方でもって許可をもらって低料金で発送する仕組みがODAだからさ。

砂川：各団体との発行日を調整って大変ですね。でも今沖脊連はやっていませんよね。

大城：今は県身協(沖縄県身体障害者福祉協会)がやっているよ。沖脊連がそういう調整をやっているのをみて、身協がこのままじゃいけないってことで今やっている。だからO

DAは身協の名前で発行しているわけさ。

砂川：ODAってそういう経緯があったわけですね。各団体の機関誌にも影響しているって聞いて驚きました。

横田：だから脊損ニュースの思わぬ効果だよな。今ではいろんな団体が利用しているからね。脊損の団体活動の一つの成果だよこれ。

大城：そうだよ。あんまり表に出てないけど一つの成果だと思うよ。みんなでがんばってODAを立ち上げたのは沖脊連の力が大きかったと思うよ。

### ● 「しゃりん」に望むこと

砂川：そろそろ最後になってきました。初期のしゃりんを作ってきた横田さんたちが今のしゃりんをみて、今後しゃりに望むことってありますか？

横田：こうして今のしゃりんをみてみるとね、やっぱり個人の投稿が欲しいよ。みんながさ、それぞれどう思っているのか知りたいはずよ。

砂川：内容についてはテーマとかを限定しないのですか？

横田：もう自由でいいはずよ。ただし、障がい者になったときの体験談はダメよと。

砂川：えっ、それはダメなんですか？

横田：例えば今、自分が夢中になっているこ

ととかさ、そんな感じで。

砂川：ある程度自分の意見を持っている人はすぐ書けそうですね。とりあえず例として横田さんに書いてもらいましょうね。

横田：うん、書いてみるよ。(あっさり)

砂川：最初が肝心だと思いますよ。横田さんが最初にすごい堅い文章を書いたら、みんなそれと同じぐらいの文章を考えてしまうので・・・。

大城：じゃあ、それをしゃりん101号に載せることでいいんだよね。

横田：じゃあ、その歴代の会長の順序で(「今思っていること」の投稿を)やっていこうよ。

大城：横田さんの次は荻堂さん、仲地さん、仲根さん・・・。

横田：次の次で荻堂さんか。荻堂さん、その間考えておいてね。ヒッヒッヒ。

荻堂：あーもう、プレッシャーになる・・・。

砂川：荻堂さんが書けなかったら聞き取りして書き起こしますんで続けましょうね。

横田：それでいいんだよ。ヒヒヒ。

砂川：本日はお忙しいなか座談会にお集まりいただき、ありがとうございました。



# ハンドサイクル試乗会

6月16日(土)豊崎海浜公園内(美らS ANビーチ)にて、沖縄で初のハンドサイクル試乗会を開催いたしました。

梅雨明け切らず、台風4号の発生に伴う天気の心配をするなか晴天に恵まれ、障がいの有無にかかわらず総勢40名程が集い、午前中は施設屋内教室にて説明会を行い、午後には昼食(BBQ)後に試乗会へと移行し、ユニットタイプとレースタイプを身体機能に応じて試乗し、潮風を受けながらビーチ周回ロードを楽しみながら、試乗・体験会を満喫する事が出来ました。

今回の試乗会につきましては、株式会社**テレウス(千葉県)**・ハンドサイクルクラブ**つむじ風(福岡県)**の方々、6名の講師・指導者・選手の自費(無償)で協力いただいた事に深く感謝申し上げます。

『ユニットタイプ:日常用、車椅子に取り付け可能。着脱、ワンタッチ・車載搭載可能』『レースタイプ用:競技目的とした構造。既製品、オーダー可・車載搭載(分解)可能』※障がいレベルによる、パラリンピック・世界大会認定競技。(前川)

か  
い  
い  
(☆挑戦してみない)



## 面白テレビ情報!

バリバラ~障がい者情報バラエティー~という番組が面白い...。いま、コアなお笑いファンの中で、旬な話題になっているバラエティーがあるのをご存知でしょうか、全国ネットでゴールデンタイムに絶賛放送中の番組です。

NHK教育テレビで放送されている障がいをテーマにしたバラエティ番組、この番組の始まりは、「日本初の障がい者のためのバラエティ番組」と銘打ち、障がい者自身が笑わせることを目指した番組です。

これまで描かれなかった障がい者のエンターテインメント性を打ち出したバラエティーに挑戦、障がい(者)を笑うのではなく、障がい者と一緒に笑いあいながら、バリアフリーを考える番組。

障がいをメインに据えたバラエティ番組の制作については「障がい者を見せ物にしている」などの批判もあったものの、9割近くを好意的な声で占めているという。

この番組の8月3日と10日の放送は、ロンドンパラリンピックをテーマに車いすテニス・ウィルチェアーラグビー・陸上競技について放送され、両日ともウィルチェアーラグビー(沖縄ハリケーンズ)の仲里進選手が出演しますので、皆さん是非ご覧になって下さいね。みんなで応援しましょう!!

発行人 沖縄県南風原町字神里六三一 編集人 沖縄県那覇市首里石嶺町四一三七三一 沖縄県総合福祉センター西棟2F  
沖縄県身体障害者福祉協会 ボランティア小規模団体室・沖縄脊髄損傷者連合会しやりん編集部 砂川昭人

購読料は会費に含む  
【頒価二十円】

**R.C.Y. Rehabilitation Clinic Yamaguchi** **リハビリテーションクリニック やまぐち** 〒900-0003 那覇市安謝 1-10-28 TEL 098-864-1100

安らぎ・癒し・元気を提供します。

診療スタッフ  
 医師 院長 山口 健 リハビリテーション科専門医  
 副院長 山口 浩 整形外科専門医  
 リハビリテーション 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師

診療科目/リハビリテーション科・整形外科 ▶ 身体機能訓練  
 ▶ 身体能力訓練  
 ▶ 言語訓練  
 ▶ 摂食嚥下訓練  
 ▶ 認知訓練

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~11:30	○	○	○	○	○	○
午後 2:00~ 6:00	○	○	○	○	○	○